

# 危機下の子どもたち

以下の地図は、2017年末時点での世界における人道的危機、特に子どもたちとその家族に影響を与えている重大な危機を示している。

## カリブ海地域 ハリケーン災害

ハリケーン「マリア」に続き、大西洋史上最強といわれたハリケーン「イルマ」によって、キューバ、ハイチ、カリブ海東部の島々で暮らす140万人が被災した。その4人にひとり子どもたち。さらにハイチではコレラの蔓延が今も続いており、2017年に報告された感染症例は1万1,600件以上、死者は130人にのぼっている。

矢印は、紛争による隣国への人々の移動を表す。

本地図の縮尺は簡略化されており、正確ではない。即座の法的地位に関して、ユニセフとしての何らかの立場を表明するものではない。点線で示されているのは、インドとパキスタンの間で合意された管理ラインである。ジャム・カシミール州の最終的な地位については、両者の間でいまだ合意されていない。スーダンと南スーダンの間での最終的な国境は、まだ決定されていない。

## ヨーロッパの難民・移民危機

2015年～2016年にヨーロッパに流入した140万人の難民・移民に続き、2017年には16万4,000人（うち、子ども2万9,000人）が流入した。トルコはすでに360万人を受け入れている。移動している子どもたちは、基本的なサービスの提供を受けられず、拘留されたり家族とはぐれるなど、安全面での様々な危険に直面している。

## シリアと周辺国

シリア紛争は開始から7年が経過し、600万人以上が国内避難民となり、子ども250万人を含む500万人以上が難民として周辺国のトルコ、レバノン、ヨルダン、イラク、エジプトに身を寄せている。

## イラク

400万人の子どもたちを含む900万人近くが人道支援を必要としており、500万人が安全な水を緊急に必要としている。国内避難民となっている300万人のうち、半数は子どもたち。

## ロヒンギャ危機

2017年後半にミャンマーのラカイン州で暴力が激化し、65万5,000人以上のロヒンギャの人々が、国境を越えてバングラデシュに流入した。新たに難民となった人々の推定58%が子どもたち。難民および影響を受けている地域住民で、人道支援を必要とする人々の数は120万人にのぼる。

## イエメン

世界で最も複雑な人道危機のひとつであり、イエメンのほぼ全人口にあたる2,200万人（うち、子どもは1,100万人）が人道支援を必要としている。公共システムの崩壊によって、重度の水様性下痢症とコレラの蔓延がさらに深刻化した。約1,600万人が安全な水を手に入れられない。

## ナイジェリアとチャド湖周辺地域

チャド湖周辺で今も続く紛争によって、カメルーン、チャド、ニジェール、ナイジェリアの1,700万人以上が影響を受けている。ナイジェリア北東部では、暴力が激化して、紛争から逃れようとする人々の移動が急増しており、推定40万人の子どもたちが重度の急性栄養不良に苦しんでいる。

## 緊急支援における慢性的な資金不足

緊急支援活動は慢性的な資金不足にあり、支援を待つ子どもたちに多大な犠牲を強いている。中央アフリカ共和国では、130万人の子どもたちが、2012年に始まり今なお続く人道危機の影響を受けている。マリでは紛争が始まってから6年が経過し、16万5,000人が重度の急性栄養不良のリスクに陥っている。

## コンゴ民主共和国

武力衝突とコミュニティ間での緊張の高まりによって、170万人以上が自宅を追われている。そのうち140万人がカサイ地区の人々。国内全土で200万人の子どもたちが重度の急性栄養不良に苦しんでおり、この人数は世界の重度栄養不良児の12%を占めている。

## アフリカの角

エチオピア、ケニア、ソマリアでは1,700万人以上が深刻な干ばつの影響を受けており、感染症の蔓延リスクが高まっている。この3カ国では、約70万人の子どもたちが深刻な栄養不良に陥っている。

## 南スーダン

4年にわたって紛争が続いており、400万人の子どもたちが食糧危機、病気、強制的な徴用、教育の機会の欠如に直面している。これらの脆弱な状況は、経済状況や食料・燃料不足によってさらに悪化している。